

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 7 令和4年4月26日(火)  
新潟大学附属新潟中学校 学校だより  
文責 教頭  
※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## 開かれた学び～人とつながる～

本日、新潟大学陸上部より、3名のスプリンターをお呼びし、ときわ体育祭の学年リレーに向けてご指導をいただきました。生徒たちは、大学生のバトンパスに歓声を上げ、大いに憧れを抱き、自分たちもあのようにスムーズにバトンパスができるようになりたい！と思ったことでしょう。

コロナ禍において、以前のように泊を伴う行事、保護者をお呼びしての授業参観や部活動の対外試合などができず、教育活動に制限がかかってきました。そのような中でも、Zoomを活用したり、人数を抑えて分散開催したりしながら、様々な人とつながる機会を確保しようと努力してきました。今回のように新潟大学陸上部からゲストを招聘し、指導を受けるような取組は、これまで一度も実施したことはありません。コロナ禍において、どのような取組ができるか、と考えたからこそ実現した取組とも言えます。

これまで、1学年の新潟大学附属特別支援学校との交流、英語の授業における新潟大学の留学生や台湾の学生との交流、全国の附属中学校生徒会役員との交流、避難訓練や音楽の授業における岩手の施設「いのちをつなぐ未来館」との交流、福井大学附属中学校の生徒との総合的な学習にかかわる探究活動の交流等、様々な人たちとつながってきました。

学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となることが不可欠となっています。これからも学びを学校で閉じることなく、様々な人と関わる活動を通して、豊かな学びを実現していきたいと考えています。



全校防災：釜石いのちをつなぐ未来館の方の講演



2学年外国語：台湾の学生との交流



新潟大学陸上部の学生による走法やリレーのバトンパスの指導